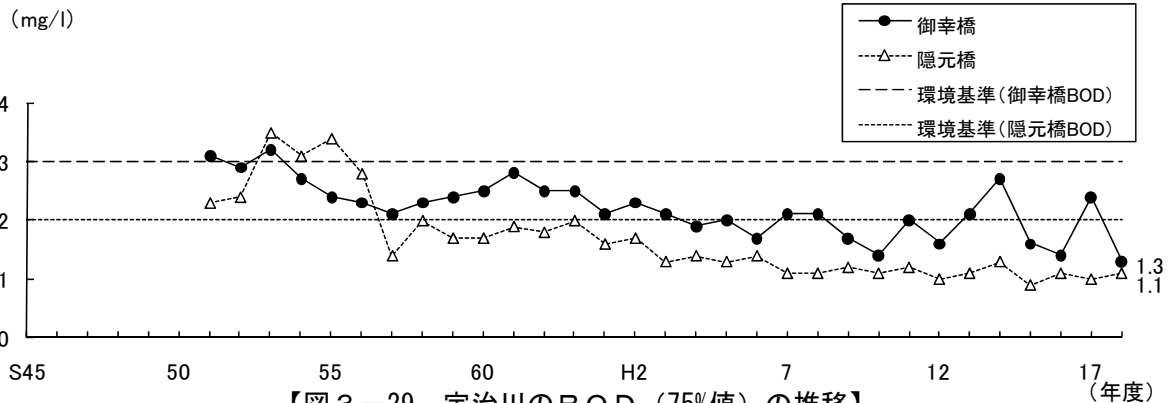


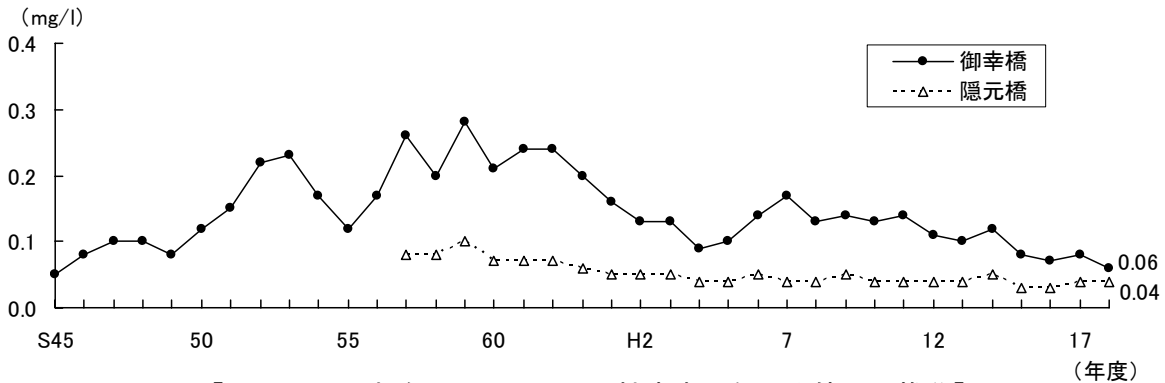
(3) 宇治川

BOD（75%値）は御幸橋で昭和50年度以降減少傾向を示し、平成18年度は1.3mg/lであった。隠元橋では昭和56年度までその下流の御幸橋より高い値を示したが、その後急速に改善され、平成18年度は1.1mg/lであった。両地点ともに環境基準を下回っている。

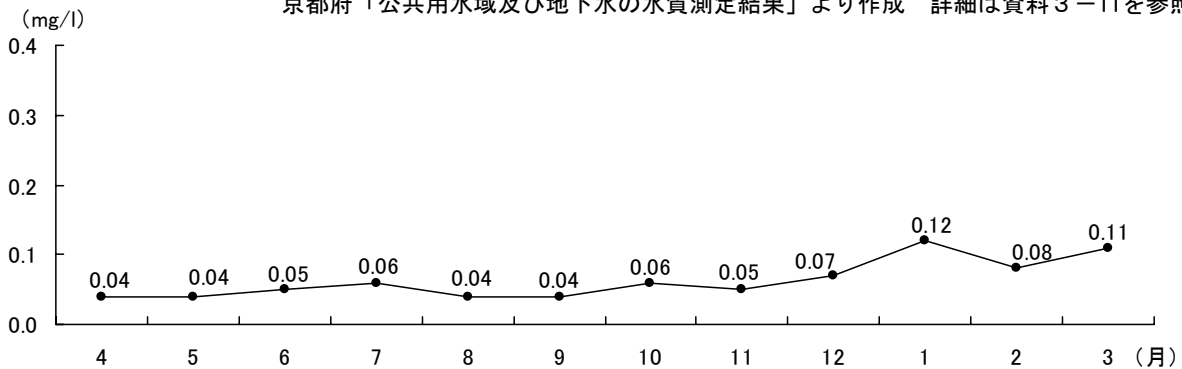
アンモニア性窒素（年平均値）は御幸橋で昭和59年度に0.28mg/lとなり、昭和45年度の約6倍もの値を示したが、下水道の整備等ともなって、それ以降急速に改善され、平成4年度は0.09mg/lとなった。その後微増したが、平成7年度からは減少傾向にあり、平成18年度は0.06mg/lであった。隠元橋では昭和57年度以降は0.10mg/l以下と良好な水質を示しており、さらにその後の改善により、平成18年度は0.04mg/lであった。



【図3-29 宇治川のBOD（75%値）の推移】
 京都府「公共用水域及び地下水の水質測定結果」より作成 詳細は資料3-10を参照



【図3-30 宇治川のアンモニア性窒素（年平均値）の推移】
 京都府「公共用水域及び地下水の水質測定結果」より作成 詳細は資料3-11を参照



【図3-31 宇治川（御幸橋）のアンモニア性窒素（平均値）の経月変化（平成18年度）】
 京都府「公共用水域及び地下水の水質測定結果」より作成